

滝高フロンティアサイエンス通信

海外研修特集号 [平成28年8月18日~25日] 第10号

マレーシアレポート 4日目(8月21日)

4日目、私たちはサバ大学とコタキナバル湿原センターに行った。また、この日はホームステイ先のホストファミリーとの初対面の日でもあった。

◇サバ大学

サバ大学の敷地はとても広い。そして高いところに位置しているので、広い海が見える。

研修内容は、まず2人の講師からボルネオ島の生物多様性とその保全についての講義を英語で受けた。事前学習して知った現状で想像していたもの以外のことを知ることが出来たり、さらにもっと詳しく知ることが出来たりした。その内容のメモを付箋でとり、後にポスターで分類分けをし、まとめた。

次に昆虫標本を見せてもらえることができた。とても多い数の昆虫が標本にされていて、サイズがとても大きいものや見たことのないもの、容姿が奇妙なものなど、海外研修に参加した4人全員が興味津々だった。



この保管庫では、湿度温度などの管理が徹底されているそう。その次に、植物の保管庫も見せてもらうことができた。葉などが保管されていて、日付、標高などがしっかりと記載されていた。中でも興味深かったのは食虫植物で、生きているものではないが、実際に触らせてもらえることができた。

◇コタキナバル湿原センター

コタキナバル湿原センターでは地質、水質、植生調査ということで、まず英語での講義を受けた。

それから、水についての説明を受け、マングローフ林を歩いた。ところどころマングローフがなく開けた場所も見られた。

マングローフ林では説明を聞きながら歩いたので、その場で疑問に思ったことを聞くことができた。例えばマングローフの種の落ちる仕組みや、時々「ポン」となる、穴からの音の仕組み、アリのことなどを聞くことができた。一通り歩くと後半の方に、階数でいうと2階半ほどの展望台のようなものがあって、そこに上り景色を眺めたい写真を撮ったりした。そこから見た景色を見た感想は、思っていたよりマングローフ林が一面に広がっていて、緑の海みたいだと思った。

その後、マングローフの幼木を育てているというところを見せてもらった。何十本もの幼木があって、それらはもう少し育った後に植林するのだという。

そして最初の講義を聞いたところに戻ってくると、ホストファミリーと顔合わせをした。少し緊張したが、無事自己紹介を終えることができ、各々の家へ向かった。それぞれ、軽食のレストランに連れて行ってもらったらしい。

